

小山をよくする会

歴史と文化を活用した地域づくり
～ふるさとを誇る住民意識の啓発事業～



赤枠で囲われたところが小山地区

1 基本データ

- 地区名 小山地区
- 地区人口 1, 967人 (H30.1.1 現在)
- 世帯数 646世帯
- 面積 約43.4km²

小山地区は、15の集落で構成される緑豊かで自然にあふれた農村地域である。

面積は、東西2キロメートル、南北4キロメートルの約8平方キロメートル。その位置は、大野市の南西部、市街地に隣接し、大型ショッピングセンターなどの商業施設が立地している。

その歴史は古く、地区内を南北に縦断する赤根川流域を中心に縄文時代から人が住み着いており、大きな勢力を持っていたと思われる豪族の古墳がいくつも存在している。

平安時代には藤原氏の荘園となり、その後、京都の春日大社と深い繋がりを持ちながら、現在まで、地区有数の農村地帯として発展してきた歴史がある。

本事業の実施主体は、地区内全戸を会員とする小山をよくする会である。

事務局を小山公民館に置き、地区内から選出された会長1人、副会長2人と、各集落の代表として選出された推進委員45人で話し合いを

行いながら、明るく豊かで住み良い地域づくりを目指して活動している。

2 現状と課題

小山地区は、大野市内でも有数の歴史を誇る地区である。

公民館の歴史講座を受講したことをきっかけに、平成18年頃に地域の歴史を学習するグループが生まれ、地域史の掘り起こし活動が行われてきた。

この活動をベースとして、平成22～29年度に実施された「結の故郷づくり交付金事業」を活用して、地域の歴史と文化を活用した地域づくり事業を展開した。

事業を実施するにあたり、次の二つを事業の柱とし、事業の実施方針とした。

1つは、地域の歴史や文化を掘り起こし、これを地区住民に知ってもらい、地域を誇りに思う住民意識の醸成を目的とした「歴史と文化の里づくり事業」である。

もう1つは、古くから米づくりなどの農作業により地域に受け継がれてきた「結の精神」を後世に承継していくことを目的とした「地域コミュニティ支援事業」である。地域住民が一丸となり、地域の課題を住民が知恵を出し合い協働で作業し解決するといった風土を継承していくために支援していくものである。

3 事業の内容

①歴史と文化の里づくり事業

小山地区のモットーである「愛汗喜働」という言葉とともに小山地区で継承される「小山鍬踊り」について、継承活動に役立てていくためのツールである紹介・解説するDVDを作成した。平成28年度に作成したDVDを複製し、関係機関や関係団体などに配布したことによって、昭和初期に小山村の吉田徳五郎村長が提唱

した農業振興施策の一環としての「農民魂」をより理解することができ、「小山鋤踊り」の継承活動につなげていくことができた。また、昔からの伝統芸能を大切に、地区を誇りに思う心が育まれた。

また、平成22年度に開催した地区歴史講座をきっかけに、地区内に新たな史跡（舌城跡）が発見され、歴史的に価値のある史跡を地域住民に知ってもらうため、舌城跡の遊歩道整備を実施してきたが、同様に隣にある茶臼山城も鎌倉時代に城として機能していたと伝えられており、この茶臼山城についても地域住民に史跡の存在を知ってもらい、地域の歴史に関心を持ってもらうため、気軽に散策できる遊歩道の整備を行った。小山地区の深い歴史を学び、ふるさとを誇りに思う郷土愛がさらに深まった。また、整備作業を協力して行うことで地域の団結力の高まりにもつながった。

地区の歴史の会とも合同で整備を行い、地域の歴史を知り、興味を持ち、地域を誇りに思う意識が芽生えつつあると言える。

平成29年度茶臼山城跡の史跡整備

御城山（上舌地係）の茶臼山城について地域住民に史跡の存在を知ってもらい、地域の歴史に関心をもってもらうため、気軽に散策できる遊歩道の整備を行った。平成28年度までは隣の

北朝時代や戦国時代の重要な城の1つであることから整備を行った。



〈下草刈り作業〉



〈階段作成作業〉



小山鉾踊りの番組のDVD複製

小山地区の継承される「小山鉾踊り」を映像で紹介・解説する番組を制作した。そのDVDを複製し、小山地区内各区や市内各小中学校、図書館等関係機関に配布した。



②地域コミュニティ支援事業

集落が持つ課題を集落で話し合い、集落の力で解決していくこの事業を実施したことにより、集落の共助や絆の大切さを再認識することができた。

小山地区は、農作業など地域で協力する“結の精神”が受け継がれている地区である。しかしながら、農作業の機械化や就労環境の変化などに伴い、地域をあげた共同作業の機会が減少しつつあり、本事業で地域の課題を話し合い、共同作業により解決することは、“結の精神”を継承する上でおおいに役立ったと考える。

また、地域交流・世代間交流を目的に実施したキッズフェスタでは、昔ながらの食文化であるもちつき体験を通じて、子どもから高齢者までが楽しく交流するとともに、臼と杵でつくもちつきを継承していくきっかけになった。

小山地区地域づくり講演会では、地域づくりの講師として大学の教授を招き、ワークショップを通じて、自分たちで小山地区の魅力と可能性を探ることができた。

集落内ピオトープ芝植栽（上黒谷）
雪崩防護壁前集落道舗装（下黒谷）
ふれあい会館スロープ新設（鉾掛）
新規花壇造成（南春日野）
住民交流事業「キッズフェスタ」（実行委員会）
小山地区地域づくり講演会

毎年、提案された事業費総額が交付金予定額を上回るため、小山をよくする会推進委員会において交付金の配分額を決定した。

上黒谷地区ピオトープの芝植栽

上黒谷地区では、集落内にあるピオトープへ芝生を植栽する事業を実施した。雑草取り、山砂敷き、芝生張り、目串止めを集落の住民により実施した。

このことにより、集落内の住民が力を合わせて作業し、自分たちが住む住環境を美しく維持していくことで、失われつつある共同作業の大切さを実感する機会が生まれた。

集落内の住民が集いおしゃべりをし、住民交流する場所として利用されている。



下黒谷地区雪崩防護壁管理道路コンクリート舗装

下黒谷地区にある平成8年に設置された雪崩防護壁には集落の平穏無事を祈願した観音像レ

リーフが飾られている。

近年、テレビ番組で紹介されたことから注目が集まり、市内外からここを訪れる人も多くなってきたことから、雪崩防護壁の脇の管理道路をコンクリート舗装することとした。

全長約450mであることから、4年間をかけて継続的に実施することが集落内で話し合われた。

今年は、約50mのコンクリート舗装が完了した。



鉦掛地区ふれあい会館スロープ新設

鉦掛地区では、集落住民で話し合いを持った結果、集落のふれあい会館にスロープを新設する整備をすることとした。

高齢者が安全に歩行できるよう長さ3.5mの手すりを設置する。

今回の整備で、鉦掛サロンの活動等で年配者の参加率が高くなることが期待できる。また、転倒予防にもなる。



南春日野地区の新規花壇造成

南春日野地区では、町内の土地を借用し花壇を新設することとした。地区民全員で管理運営を行うことで、住民のコミュニケーションをとることができるようになる。また、旧地区民と新居住者との相互理解をはかることができる。年配者と子ども達との面識も増え、見守り隊の意識も出てくる。



キッズフェスタの様様

小山公民館で活動するグループの有志により結成されたキッズフェスタ実行委員会により、地区全体の交流、世代を越えた交流の機会として、キッズフェスタが今年度も継続して開催された。うすと杵を使った餅つきを子どもたちに体験させる内容とした。家庭での餅つき体験が少なくなりつつある中、子どもたちに餅つきを体験させる良い機会となった。また、地域に住む餅つき熟練者を招き指導してもらったことで、世代間の交流も生まれ、地域の絆が深まったイベントとなった。

さらには、地域の壮年団体「小山一龍の会」のメンバーも参加、子どもがいない世帯からの参加もあり、イベントを通しての人と人とのつながりが広がりを見せている。

継続して開催していることから、住民への認知度も高まり、参加者の増加も期待している。

毎回、参加者からは大変な好評価を得ている。



小山地区地域づくり講演会

子どもたちの住みやすい地域にしていくため、また、お年寄りの住みやすい地域にしていくためにということをも目的に、これからの「小山」をよくしていくために勉強会を行い、地区住民とともに地域づくりの学習機会を持った。また、ワークショップを行うことによって自分の地域の魅力に気が付くとともに、自分の地区の可能性をさぐることができた。



4 事業の成果

①歴史と文化の里づくり事業

- 平成28年度に作られた「小山鉾踊り」解説DVDを地区内外に配布した。地区でモットーとしている「愛汗喜働」という言葉と共に「小山鉾踊り」を継承していく活動につなげることができ、地区を誇りに思う意識が醸成された。また、地区外の関係者等に配布することによって「小山鉾踊り」を知らしめることができた。
- 小山地区にある旧跡の存在が広く住民に周知してきており、舌城とともに茶臼山城の整備を行うことにより、小山地区の深い歴史を学び、地区を知り、地区を学び、ふるさとを誇りに思う郷土愛を深めることができた。また、整備作業を協力して行うことで地域の団結力が高まった。

②地域コミュニティ支援事業

- 地域の課題を話し合い、共同作業を実施することで、共助の精神“結の精神”が継承されるきっかけとなった。
- 地域住民の交流により絆が深まった。
- 小山地区の課題と魅力に気づき、これからの小山地区の可能性を探ることができた。

5 今後の展望

今年で8年目となる本事業を継続実施してきたことで、各種行事や作業に参加した人を中心に、地域を誇りに思う住民が徐々に増えてきた。

新たに、地区の資源を生かした活動ができないかと模索する地区民も出てきており、地区の活性化についてさらなる展開が期待できる。

小山鉾踊りの紹介番組を作成し、関係者にDVDを配布したことによって、地区に受け継がれてきている、汗を流して、働いて、喜ぶという「愛汗喜働」の精神を今一度見つめなおすことができた。

今後、歴史と文化の里づくり事業においては、埋もれている地区内の歴史の掘り起しに力を入れるとともに、これまでの取り組みを見つめなおすことも重要である。さらに、掘り起こした歴史や伝統文化などを地区住民に広げていくことが課題である。

また、地域コミュニティ助成事業については、事業の目的としている“結の精神”の継承を図るため、事業を継続していく必要がある。キッズフェスタについては、近年騒がれている餅つき中毒に十分気をつけるとともに臼と杵を使った昔からの食文化体験を大切にしていきたい。

農作業の歴史が作り上げた助け合い、協力する精神を今後も継承するためには、継続した取り組みが必要である。

地域活動が活性化し、地域を誇りに思う意識や機運がより高まるよう、小山をよくする会として、今後も粘り強く地域づくりに取り組んで行きたいと考えている。